

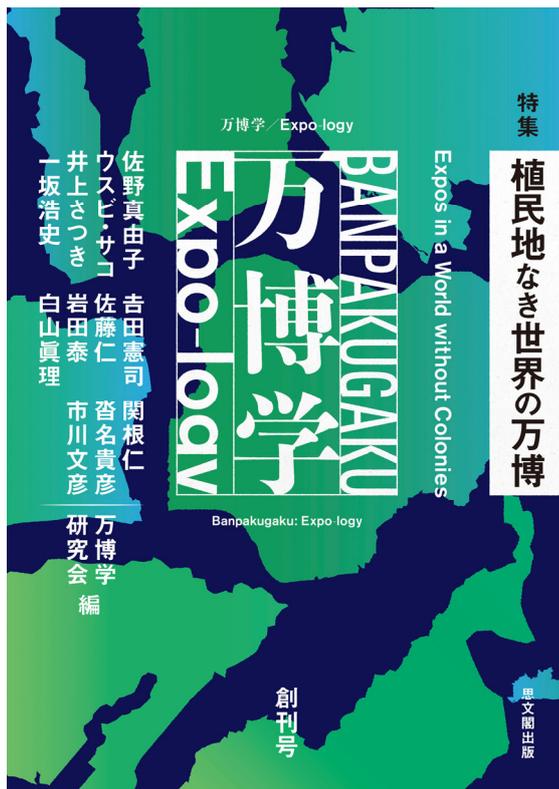
『万博学／Expo-logy』

(年1回、万博学会編・思文閣出版刊)

の創刊について

京都大学大学院教育学研究科 佐野真由子 教授が主宰する万博学会では、来る2020年12月10日をもって、年1回発行の新ジャーナル『万博学／Expo-logy』を創刊いたします。

創刊号の特集は、「植民地なき世界の万博」です。



<創刊号目次>

創刊にあたって (万博学会 代表 佐野真由子)

【特集】植民地なき世界の万博

万国博覧会と「植民地」の消滅

——国際博覧会条約一九七二年改正を中心に (佐野真由子)

万国博覧会における「アフリカ表象」をめぐる (ウスビ・サコ)
パビリオンと音楽——戦後の万博における前川國男 (井上さつき)

〔コラム〕大阪・関西万博における途上国支援について

——実務担当者の目線から (一坂浩史)

〔座談会〕対等であるとはどういうことか (吉田憲司・佐藤仁・
岩田泰・佐野真由子)

【万博学の最前線】

日本製カメラの一九五〇年代

——輸出と展示会と万博と (白山眞理)

一八七六年フィラデルフィア万国博覧会と西郷従道 (関根仁)
聖地・上野公園にみる博覧会の「分類」と「遷移」 (沓名貴彦)

【これも万博資料】

〔コラム〕欧州の〈都会案内〉にみる、万博見物指南 (市川文彦)

〔コラム〕万博が登場する小説・映画 (岩田泰)

英文目次・要旨

<書籍情報>

タイトル：『万博学／Expo-logy』創刊号 (特集 植民地なき世界の万博)

編者：万博学会

出版元：思文閣出版

体裁：A5判・200頁 (電子版も刊行予定)

定価：本体2,000円 (税別)

ISBN：978-4-7842-2048-9

参考URL：<https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/9784784220489/>

●万博学会は、2010年の上海万博をともに視察した小さなグループを端緒とし、徐々に規模と内容を拡充しながら活動を続けてきました。これまでに、佐野編著により2冊の共同研究論集『万国博覧会と人間の歴史』（思文閣出版、2015年）、『万博学—万国博覧会という、世界を把握する方法』（同、2020年）を世に送っています。（研究会HP→ <https://cp.educ.kyoto-u.ac.jp/expo-logy/>）

●「万博学」とは、単に催事としての万国博覧会を詳細に研究することとは異なります。10年の共同研究を経て、「万博という対象のさまざまな側面をつぶさに研究することの向こうに、この世界の人間たちの歩みが赤裸々に浮かび上がってくる」という研究視座にたどり着きました。これは「学際的人間学」と捉えることのできるものであり、「世界史の新しい方法」でもあると考えています。

2年前の12月、上記の2冊目の論集刊行によってそのコンセプトを打ち出し、それを機に、研究会の名称も万博学会と改めました。

●『万博学／Expo-logy』の発刊は、「万博学」という研究視座のより広い共有と継承を願い、準備に数年を要する大部の論集に比し、研究成果をコンスタントに発信しうる媒体を構想したものです。今後、掲載原稿のラインナップ、とくに特集テーマの積み重ねを通じて、「万博学」の可能性を浮かび上がらせていくことを狙いとしています。

●掲載論文は、すべて万博学会での報告と議論をもとに原稿化され、さらに、新たに考案した独特で厳しい査読プロセスを経たものです。

ただし、本誌は一般的な学会誌のスタイルをとりません。高い学術的価値を持つと同時に、広範な職業人にとって魅力ある読み物をめざし、万博学会による学際的な編集のもと、思文閣出版から刊行されます。とくに、学界と社会の実務現場を横断するスタンスをつねに重視してきた万博学会の蓄積を生かし、編集内容にも反映させていきます。

●創刊号の特集テーマは「植民地なき世界の万博」とし、第二次世界大戦後における万博の脱植民地化過程に焦点を当てました。万博史では戦前の「植民地展示」を批判的に論じることが常套となってきましたが、このたびのテーマは、従来の研究が取り上げてこなかった、国際的にも最前線に位置づけられるものです。

●日本では2025年の大阪・関西万博が近づいています。目の前の催事として万博への注目度が増していくことと思われませんが、そのなかでこそ、地に足のついた研究を続け、万博に関して深く研究することのおもしろさを社会に発信していきたいと考えています。